

科目名 【英】	キャリアデザイン講座 1 Course of career Design 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	6

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道整復師として後療法での手技療法の知識と実技を身に付ける。
到達目標	身体の全身を筋肉を把握し、慰安目的の手技療法が出来るようになる

準備学習 時間外学習	学んだ手技療法を自宅にて家族に施す。一人暮らしの場合は友人に施す。また、学んだ関連部位の解剖学を復習する。
使用教材	副教材として解剖学の教科書を持参して受講する事が望ましい
留意点 備 考	

成績評価	実技テスト１００％
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/9	一般手技の知識と技術	後療法で使用する手技の必要性や考えを説明できる。
2	4/23	足裏	手技を用いて足裏の施術が出来る。
3	5/7	下腿	手技を用いて下腿の施術が出来る。
4	5/14	大腿後面	手技を用いて大腿後面の施術が出来る。
5	5/21	臀部	手技を用いて臀部の施術が出来る。
6	5/28	前半までの復習	足裏から臀部までの一連の流れを把握し、お互いに評価し満足のいく施術が出来る。
7	6/4	背部	手技を用いて背面の施術が出来る。
8	6/11	肩甲骨周囲	手技を用いて肩甲骨周囲の施術が出来る。
9	6/18	肩	手技を用いて肩の施術が出来る。
10	7/2	腰部	手技を用いて腰部の施術が出来る。
11	7/16	頸	手技を用いて頸の施術が出来る。
12	7/23	前面の下腿	手技を用いて前面の下腿の施術が出来る。
13	8/27	前面の大腿	手技を用いて前面の大腿の施術が出来る。

14	9/3	前面での肩頸	手技を用いて前面での肩頸の施術が出来る。
15	9/24	後半の復習	腰から頸にかけての前半の手技を把握し、お互いに評価し満足のいく施術が出来る。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	キャリアデザイン講座 2 Course of career Design 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	7

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	医療系学生としての目標の設定、日々の過ごし方、また医療人としての心構えや、社会に向けての心構え意識付け、一流の選手の考え方や行いを、座学やセッションを通して学ぶ。
到達目標	医療系学生として、どこに出しても恥ずかしくないレベル、かつ卒業後社会人として即活躍できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	その日の授業を、帰宅後の振り返りやワークで未完成な部分を完成させる。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/9	メンタル導入部	考え方やメンタルの重要性に気づき、今後の授業に役立てる。
2	4/23	目的、目標セット	個人の目的、目標を明確にし、日常生活のあり方に役立てる。
3	5/7	メンタルブレイン トレーニング1	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。
4	5/14	メンタルブレイン トレーニング2	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。
5	5/21	メンタルブレイン トレーニング3	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。
6	5/28	勉強の仕方1	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。
7	6/4	勉強の仕方2	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。
8	6/11	お金と仕事の関係 投資と消費と浪費	不断な逃げに触れ合っている、お金と仕事。その関係性と意味を知ること、今後の生き方を根本から変えることを説明できる。
9	6/18	柔道整復師の仕事 について	自分がなろうとしている、柔道整復師とはどんな仕事をするのかを画像を踏まえながら創造し、自分がなりたい柔道整復師像を具体的に説明できる。
10	7/2	スポーツエンタメ トレーナー1	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーとはどんな仕事をするのかを説明できる
11	7/16	スポーツエンタメ トレーナー2	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーには、どんな技術や考えが必要かを説明できる
12	7/23	スポーツエンタメ トレーナー3	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーには、どんな技術や考えが必要かを説明できる。
13	8/27	一般手技療法1	後療法で必要な基礎的な手技療法を行う事が出来る。

14	9/3	一般手技療法 2	後療法で、足を手技療法で施術できることが出来る。
15	9/24	一般手技療法 3	後療法で、臀部を手技療法で施術できることが出来る。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	栄養学 1 Nutrition 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	早田 地翼	実務者経験	2015年4月～2017年3月 大学食堂にて栄養士として勤務 体育学部所属の学生に食事提供をおこなう
------	-------	-------	---

学習内容	医療人として必要な栄養の基礎知識を学ぶ。 柔道整復師としてスポーツ現場で活躍するために必要なスポーツ栄養学を学ぶ。
到達目標	ヒトにおける五大栄養素の役割と働き、代謝について理解し、栄養摂取の重要性について説明できるようになる。さらに、柔道整復師としてスポーツ現場で活躍するために必要な「スポーツ栄養学」の知識を身につけ、スポーツ選手の栄養摂取や栄養問題等について説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	授業後は配布資料を復習すること。専門基礎分野である生理学と関連付けて学習することが望ましい。
使用教材	担当教員が作成したPowerPointのスライドおよびその配布資料を使用する。
留意点 備 考	【参考書】体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学、新版コンディショニングのスポーツ栄養学、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨ スポーツと栄養 他

成績評価	定期的に小テストおよびレポートを実施。期末試験70%＋小テストおよびレポート30%で評価する。
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/11	基礎栄養学 1	オリエンテーション（授業内容の説明など）、イントロダクション（栄養とは） 栄養の定義について理解する。
2	4/18	基礎栄養学 2	五大栄養素について①（たんぱく質、脂質、炭水化物） 生体内におけるたんぱく質、脂質、炭水化物の役割と働きについて理解する。
3	4/25	基礎栄養学 3	五大栄養素について②（ビタミン、ミネラル） 生体内におけるビタミン、ミネラルの役割と働きについて理解する。
4	5/9	基礎栄養学 4	エネルギー産生と代謝 エネルギー産生の流れと三大栄養素の代謝について理解する。
5	5/16	基礎栄養学 5	エネルギー必要量について エネルギー必要量と推定方法について理解する。
6	5/23	スポーツ栄養学 1	スポーツと栄養（スポーツ栄養サポートとは） スポーツにおける栄養の重要性について理解する。
7	5/30	スポーツ栄養学 2	スポーツトレーニングの基礎理論（トレーニング効果を高める栄養摂取について考える） トレーニング効果を高める栄養摂取について理解する。
8	6/6	スポーツ栄養学 3	スポーツ選手の食生活（身体組成や競技特性に応じた食事内容を考える） スポーツ選手の身体組成や競技特性に応じた食事内容について理解する。
9	6/13	スポーツ栄養学 4	試合時の食事、運動・トレーニング時の補食について 試合前後の食事、運動・トレーニング時の補食や摂取タイミングについて理解する。
10	6/20	スポーツ栄養学 5	サプリメントとアンチ・ドーピング（サプリメントの有効活用方法について考える） サプリメントの有効活用方法とアンチ・ドーピングについて理解する。
11	7/4	スポーツ栄養学 6	熱中症の予防と水分補給 運動時の適切な水分補給について理解する。
12	7/18	スポーツ栄養学 7	スポーツ選手の健康問題①（貧血、骨折） 貧血、骨折と栄養との関連、それらの予防・改善策について理解する。
13	7/25	スポーツ栄養学 8	スポーツ選手の健康問題②（FAT） FATに対する正しい知識を獲得し、予防・改善策について理解する。

14	8/29	スポーツ栄養学 9	栄養指導・教育の実際 スポーツ選手への栄養指導・教育の方法や内容について理解する。
15	9/26	補足・まとめ	補足・まとめ
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	栄養学 2 Nutrition 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	服部洋一 吉田和功	実務者経験	2016年4月より兵庫医科大学病院 歯科口腔外科学講座に在籍。
------	--------------	-------	---------------------------------

学習内容	医療人として必要な栄養の基礎知識を学ぶ。
到達目標	ヒトにおける五大栄養素の役割と働き、代謝について理解し、栄養摂取の重要性について説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学との関連を復習する。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	副教材として生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/13	細胞	元素、細胞、タンパク質 元素、細胞の構造を理解する
2	4/20	栄養素	栄養と疾患について 5大栄養素、栄養と疾患の関わりを理解するし、説明することができる。
3	4/27	疾患 1	タンパク過剰症、欠乏症 脂質異常症 それぞれの身体における役割を知る。
4	5/11	疾患 2	糖質過剰摂取 ビタミン過剰症 ミネラル欠乏 糖尿病、ビタミン過剰症、電解質異常について理解する
5	5/25	消化と吸収 1	消化器の働きについて理解し、説明することができる。
6	6/1	消化と吸収 2	消化と吸収について理解し、説明することができる。
7	6/8	栄養と代謝 1	栄養素、物質代謝について理解し、説明することができる。
8	6/15	栄養と代謝 2	栄養素、物質代謝について理解し、説明することができる。
9	6/22	骨の代謝 1	骨の代謝について理解し、説明することができる。
10	7/6	骨の代謝 2	骨の代謝について理解し、説明することができる。
11	7/13	総復習 1	栄養と疾患について理解し、説明することができる。
12	7/20	総復習 2	栄養と疾患について理解する
13	8/31	総復習 3	栄養と疾患について理解する

14	9/7	総復習 4	栄養と疾患について理解する
15	9/21	試験解説	前期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	医学英語 Medical English			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	南 雅子	実務者経験	1989年より医療系専門学校にて医学英語指導/医師、薬剤師、東洋医療治療者、理学療法士、看護師、スポーツ関係者への英語指導
------	------	-------	---

学習内容	柔道整復師としておさえておきたい基礎医学英語(症状名、身体名、バイタル、骨、筋肉、組織、神経、血液、医療略語、病院各科)と整骨治療、スポーツトレーニングにおける専門用語や診療に使う表現などを学ぶ。
到達目標	医療従事者をめざす上で知っておきたい基礎医学英語を習得した上で、柔道整復におけるさまざまな診療表現などを使えるようにする。

準備学習 時間外学習	医学英語を学ぶ上での、人体や医療における基礎知識を医療や整骨の授業できちんと習得しておくことが望ましい。
使用教材	教科書『MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION』(国際教育社) 教材プリント
留意点 備 考	実際の治療現場で使えるさまざまな英語資料の提供と使いかたの実践も行う。

成績評価	3回の発表と医療英単語の口頭試験を実施。 前期末試験75%+発表/口頭試験25%で評価する。
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/10	医学英語 1	授業内容の解説/柔道整復基礎用語/Ch. 1 受付の会話/英語の名刺/よく使う英会話表現 医学英語の概要を理解するを目標とする。 MA A~B
2	4/24	医学英語 2	柔道整復でよく使う症例名/Ch. 2 病院各科の名称、Ch. 3痛みの表現/発表(1) 英語の自己紹介 柔道整復治療において必ず知っておきたい症例名を理解できることを目標とする。 MA C~D
3	5/8	医学英語 3	Ch. 3 痛みの表現、人体名/ペインスケールの活用方/顔の名称/柔道整復関連用語(3) さまざまな痛みの英語表現とペインスケールを有効に使えるようになることを目標とする。
4	5/15	医学英語 4	診療所の会話一受付、診察室(ペアワーク)Ch. 4 症状名/症状の表し方を学ぶ 整骨院の受付の会話、診察室での会話を練習する。 MA E~H
5	5/22	医学英語 5	発表(2) 診療所の会話一受付、診察室(ペアワーク) /Cha. 5, 6内臓の名称、問診に使う表現 整骨院での受付、診察室での会話を次戦で行うことができることを目標とする。 MA I~N
6	5/29	医学英語 6	整骨治療におさえる原因、発症時の特定/Ch. 7内科診察室での英語/手指、足指関節の名称 治療に重要な原因や発生時の特定の行いかたのポイントをおさえることを目標とする。 MA O~S
7	6/12	医学英語 7	医療従事者の緊急時の英語/病院会話のヒント/CH. 9, 10 バイタルサイン、救急/痛みの特定 バイタルサインの習得。緊急時に必要な表現を使えるようにすることを目標とする。 MA T~Z
8	6/19	医学英語 8	柔道整復の診療のための表現/病院会話のヒント/カルテ/CH. 9, 10 外科、検査 診療に必要な表現を使えるようになることを目標とする。 MA カルテ略語
9	6/26	医学英語 9	骨の名称/CH. 12 整形外科、整骨院(用語 フレーズ リスニング)/Eメール お礼 お見舞の資料 整形外科、整骨院のリスニング練習により現場の英語になれることを目標とする。
10	7/3	医学英語 10	関節可動域/膝靱帯/整骨院のリスニング練習/ch 13, 14 リハビリの用語、表現 可動域や膝靱帯の名称の習得、リハビリ用具や指示の言い方の練習をする。
11	7/17	医学英語 11	柔道整復治療の会話(syクリプト提出)/会計、薬/診療のキーフレーズ 柔道整復治療の会話表現を各自考えて作成することによる理解の向上を目標とする。
12	7/24	医学英語 12	発表(3) 柔道整復での会話/柔道整復で使える表現のまとめ/多言語問診票(英語以外の5カ国用) 柔道整復の治療の会話の発表をすることにより現場で使えることを目標とする。
13	8/28	医学英語 13	口頭試験一柔道整復、医学英語関連用語/筋肉、骨の資料配布 柔道整復、医学英語の重要英単語の口頭試験による発話機会と定着を目標とする。

14	9/4	医学英語 1 4	前期末試験対策学習(柔道整復、整骨院の診療用語語およびフレーズ医学英語、医療訳語など)試験勉強を通して学習内容の復習を目標とする。
15	9/25	医学英語 1 5	前期末試験返却、見直し/整骨院の問診票/柔道整復資料配布/スポーツトレーニングの英語 前期末試験の見直しと、整骨院やスポーツトレーニングで使える資料の解説指導をする。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	解剖学 1 Anatomy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	服部洋一 吉田和功	実務者経験	2016年4月より兵庫医科大学病院 歯科口腔外科学講座に在籍。
------	--------------	-------	---------------------------------

学習内容	人体の正常構造を学ぶ。まず解剖学を学ぶ上での基礎的事項を学習し、脈管系、内臓系へと知識を深めてゆく。
到達目標	人体の脈管系・内臓系の種類と仕組みを語ることが出来る。

準備学習 時間外学習	
使用教材	解剖学 改訂第2版 （医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験（１００％）
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/13	解剖学概論	人体解剖学概説 細胞の構造を理解する
2	4/20	運動器系	運動系 骨格系 1 骨の役割 名称を理解する
3	4/27	脈管系 1	血管の役割 名称を理解する
4	5/11	脈管系 2	血管の役割 名称を理解する
5	5/25	脈管系 3	血管の役割 名称を理解する
6	6/1	脈管系 4	血管の役割 名称を理解する
7	6/8	内臓 1	内臓の役割 名称を理解する
8	6/15	内臓 2	内臓の役割 名称を理解する
9	6/22	内臓 3	内臓の役割 名称を理解する
10	7/6	内臓 4 小テスト	内臓の役割 名称を理解する
11	7/13	総復習 1	国家試験の過去問題を理解する
12	7/20	総復習 2	国家試験の過去問題を理解する
13	8/31	総復習 3	国家試験の過去問題を理解する

14	9/7	総復習 4	国家試験の過去問題を理解する
15	9/21	試験解説	前期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	生理学 1 Physiology 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	橘 吉寿	実務者経験	2003. 11-現在 生理学・神経科学講座に在籍
------	------	-------	---------------------------

学習内容	柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ
到達目標	生理学1では、呼吸・循環など我々が生きていく上で必要な生体機能の基本原理を理解することを目指す

準備学習 時間外学習	予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる
使用教材	教科書『生理学』改訂第3版（医歯薬出版）
留意点 備 考	副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/10	生理学1	生理学概論 生理学とは何か・ホメオスタシスとは何かを説明することができる。
2	4/24	生理学2	細胞の構成要素を知る 細胞内器官について説明することができる。
3	5/8	生理学3	細胞の基本的な機能を知る 細胞の機能ならびに細胞内分子・イオンの流れを説明することができる。
4	5/15	生理学4	血液の組成・機能 血液の構成要素とその機能を説明することができる。
5	5/22	生理学5	血液型・血液凝固のしくみ 血液の凝固機構ならびに血液型のしくみを説明することができる。
6	5/29	生理学6	心臓の構造・心筋の基本的性質1 心臓の構造について説明することができる。
7	6/12	生理学7	心筋の基本的性質2 心筋の収縮・伝導系について説明することができる。
8	6/19	生理学8	心電図・不整脈について 心電図のしくみ・不整脈について説明することができる。
9	6/26	生理学9	血管の構造と働き 血管の構造と機能について説明することができる。
10	7/3	生理学10	循環の調節 血圧のしくみ・制御機構について説明することができる。
11	7/17	生理学11	局所循環 冠循環・肺循環・脳循環について説明することができる。
12	7/24	生理学12	呼吸器の構造・換気のしくみ 呼吸器の構成要素・換気メカニズムについて説明することができる。
13	8/28	生理学13	ガス交換のしくみ 呼吸器ならびに血液におけるガス交換のしくみについて説明することができる。

14	9/4	生理学14	呼吸調節機構 呼吸調節機構を説明することができる。
15	9/25	試験解説	試験の振りかえり
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔道 1 Judo 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	5

担当教員	坂本 美和子	実務者経験	他校(専門学校)を含め週12時間以上、17年間講師を務める
------	--------	-------	-------------------------------

学習内容	初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。
到達目標	三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。

準備学習 時間外学習	自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。
使用教材	柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のTシャツ
留意点 備 考	メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。

成績評価	実技試験80%、平常点(授業態度と出欠)20%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	自己紹介と受講の きまり	自己紹介と授業を受けるための心構え、受講の決まりを把握する。	
2	柔道衣の着方と掃 除方法	きちんとした柔道衣を着る方法を学び、掃除の方法を学び、出来るようになる。	
3	礼法と受身 1	立礼・座礼の方法を知る。受身を学び、把握する。後ろ受身が出来るようになる。	
4	礼法と受身 2	立礼・座礼の方法を復習する。後ろ受身、長座からの受身、中腰からの受身が出来るようになる。	
5	礼法と受身 3	立礼・座礼の方法を復習する。後ろ受身、長座からの受身、中腰からの受身、二人組で受身が出来るようになる。	
6	礼法と受身 4	立礼・座礼の方法を復習する。長座からの受身、中腰からの受身、二人組で受身の復習の後、横受身を学ぶ。	
7	礼法と受身 5	立礼・座礼の方法を復習する。二人組で受身、横受身の復習後、移動後ろ受身・横受身が出来るようになる。	
8	礼法と受身 6	立礼・座礼の方法を復習する。横受身、移動後・横受身復習後、前回り受身の方法を学び把握する。	
9	礼法と受身 7	立礼・座礼の方法を復習する。移動後・横受身、前回り受身の回転が出来るようになる。	
10	礼法と立技 1	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、組み方、動き方、さばき方を学び把握する。	
11	礼法と立技 2	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、支釣込足を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。	
12	礼法と立技 3	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、大腰を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。	
13	礼法と立技 4	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、一本背負投を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。	

14		礼法と立技 5	立礼・座礼の方法を復習する。試験の方法を把握し・練習し、試験が受かるようにする。
15		試験の解説と立技	立礼・座礼の方法を復習する。試験の解説後、立技の乱取り2分×3人し、柔道の楽しさと苦しさを学ぶ。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整総論 1 General Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	柔道整復学総論（骨折、脱臼）を学ぶ。
到達目標	柔道整復師国家試験に対応できるように骨折、脱臼について説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	前期中に3回小テストを実施する。期末試験70%＋小テスト30%で評価する。
------	---------------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/8	人体に加わる力	柔道整復学を学習するうえで必要な人体に加わる力について説明することができる。
2	4/15	損傷時に加わる力	柔道整復学を学習するうえで必要な損傷時に加わる力について説明することができる。
3	4/22	骨の形態と機能	柔道整復学を学習するうえで必要な骨の形態と機能について説明することができる。
4	5/13	骨損傷の概要	骨損傷の概要について説明することができる。
5	5/20	骨折の分類	骨折の分類について説明することができる。
6	5/27	骨折の症状	骨折の症状について説明することができる。
7	6/3	骨折の合併症	骨折の合併症について説明することができる。
8	6/10	小児骨折	小児骨折について説明することができる。
9	6/17	高齢者骨折	高齢者骨折について説明することができる。
10	6/24	骨折の治癒日数	骨折の治癒日数について説明することができる。
11	7/1	骨折の治癒過程	骨折の治癒過程について説明することができる。
12	7/8	骨折の予後	骨折の予後について説明することができる。
13	7/22	骨折の治癒に影響 を与える因子	骨折の治癒に影響を与える因子について説明することができる。

14	8/26	脱臼	脱臼について説明することができる。
15	9/2	試験解説	前期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整総論 2 General Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復師に必要である解剖学用語、治療法、指導管理、外傷予防について学ぶ。
到達目標	柔道整復師としての治療法を知り各処置での注意点を理解する。 また、怪我を未然に防ぐための活動について理解し、説明することができる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		人体解剖学概説	【解剖学用語、器官の定義】 人体各部の名称およびその位置と方向を示す用語について理解し、説明ができる。
2		柔道整復学概説	【柔道整復術および柔道整復師の沿革】 柔道整復術の沿革を知り、業務範囲について説明ができる。
3		治療法 1	【整復法とは、骨折の整復法】 治療体位、整復法の定義が説明でき、骨折整復法の分類ができる。
4		治療法 2	【脱臼の整復法、軟部組織損傷の初期処置】 脱臼整復法の分類、R I C E処置について説明ができる。
5		治療法 3	【固定法】 固定の目的、固定範囲について説明ができる。
6		治療法 4	【固定後の配慮】 固定法についての指導管理の理解と説明ができる。
7		治療法 5	【後療法 1】 手技療法の基本型、誘導マッサージについて説明ができる。
8		治療法 6	【後療法 2】 運動療法の基本型について説明ができる。
9		治療法 7	【後療法 3】 運動療法の種類、禁忌についての理解説明ができる。
10		指導管理	【患者を取り巻く環境】 指導管理を理解し、患者に再発予防に対する自己管理意識をもたせることができる。
11		外傷予防 1	【第一段階①】 身体の基礎的状态の評価項目を知り、それぞれの対応を説明することができる。
12		外傷予防 2	【第一段階②】 外傷予防啓発活動、メンタルヘルスを保つ活動について知り、説明することができる。
13		外傷予防 3	【第二段階・第三段階】 早期発見、早期治療の重要性、受傷後の悪化防止について理解し、説明ができる。

14		総復習	試験に向けての総復習を行い、期末試験 60 点以上を目指す。
15		試験解説	前期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整総論 3 General Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1		前期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	牧之瀬 泰佑	実務者経験	H11年6月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	--------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復師における治療法（整復法、固定法、後療法）及びこれらに伴う指導管理と外傷予防を学ぶ。柔道整復師本来の治療法のみならず現代的医療にかかわる外傷に対する予防法や初期処置を学ぶ。
到達目標	解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解する。 各組織の損傷から治癒に至る経過の理解をする。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に骨・筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/11	自己紹介（自分の経験した怪我）	柔道整復師の仕事がマッサージではなく、外傷を治す仕事であることを認識する
2	4/18	関節の構造と機能	関節構造を知り、骨の連結について理解する。
3	4/25	関節の構造と機能	関節構造を知り、骨の連結について理解する。また機能を把握する
4	5/9	概説・損傷する組織 1	各組織ごとの損傷から治癒へ至る内容を理解する
5	5/16	概説・損傷する組織 2	各組織ごとの損傷から治癒へ至る内容を理解する
6	5/23	筋の損傷 1	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する
7	5/30	筋の損傷 2	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する
8	6/6	腱の損傷 1	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する
9	6/13	腱の損傷 2	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する
10	6/20	末梢神経損傷 1	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解する
11	7/4	末梢神経損傷 2	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解する
12	7/18	血管・リンパ系・皮膚損傷 1	血管・リンパ系・皮膚の損傷から治癒へ至る内容を理解する
13	7/25	血管・リンパ系・皮膚損傷 2	血管・リンパ系・皮膚の損傷から治癒へ至る内容を理解する

14	8/29	試験対策	前期の範囲を振り返り前期試験に自信を持って挑めるようにする
15	9/26	試験解説	前期試験解説を行い忘れていた内容を再確認する
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整基礎講座 1 Course of Basic Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	正常な人体機能を学び、基礎知識を身につける。
到達目標	1. 人体機能について学んだ内容を自分の言葉で説明することができる。 2. 各項目のポイントを習得、整理して他者に伝えることができる。

準備学習 時間外学習	生理学 1・柔整生理Aの講義内容の復習は必須である。本科目の予習もしておくことが望ましい。 予習プリントを各自取り組んでから授業に参加すること。
使用教材	P C・配布資料・生理学改訂第3版 根来英雄・貴邑富久子 著（南江堂）
留意点 備 考	プレゼンテーションを予定しているので自ら学ぶ姿勢をもつようにすること

成績評価	前期末試験100%（筆記）
------	---------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/10	オリエンテーション	講義説明【授業内容・スケジュール・ルール・成績評価】 生命の成り立ちと体液区分
2	4/24	体液 1	体液と調節①【体液組成・体液浸透圧調節】 体液のイオン組成について説明できる。
3	5/8	体液 2	体液と調節②【体液量調節】 体液調節の概要について説明できる。
4	5/15	体液 3	体液と調節③【体液の恒常性維持・腎臓】 腎臓の機能について説明できる。
5	5/22	血液 1	血液の機能【役割・血液組成・血球機能】 血液の機能と血球の種類について説明できる。
6	5/29	血液 2	血液型【ＡＢＯ式血液型・輸血】 ＡＢＯ式血液型について説明できる。
7	6/12	血液 3	血液凝固【止血機序・凝固因子・線溶系】 止血機序について説明できる。
8	6/19	神経系の機能 1	神経系の構成【中枢神経系・末梢神経系・脊髄の機能】 神経系の構成について説明できる。
9	6/26	神経系の機能 2	興奮の伝導と伝達【伝導の原則・シナプス・神経線維の分類】 伝導の原則について説明できる。
10	7/3	神経系の機能 3	反射【脊髄反射・伸張反射】 伸張反射の反射弓を図示できる。
11	7/17	プレゼン準備 1	プレゼンテーション準備【テーマ選び・発表形式・パワーポイント操作】 各チームがテーマを決定する。
12	7/24	プレゼン準備 2	プレゼンテーション準備【発表案の作成・スライド作成】 順序立てて発表案・スライドを作成することができる。
13	8/28	プレゼン準備 3	プレゼンテーション準備【発表案の作成・スライド作成・発表練習】 スライド・発表案が完成して発表することができる。

14	9/4	プレゼンテーション	学生講義【チームプレゼンテーション】 自らの言葉で学んだ内容を伝えられる。
15	9/25	総まとめ	前期内容の補填および復習 前期内容を説明することができる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整基礎講座 2 Course of Basic Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	脈管系（心臓、動脈、静脈、胎児循環、リンパ系）、内臓系（消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器）の構造を学ぶ。
到達目標	脈管系、内臓系の構造を身体全体として把握し、それぞれの特徴を理解し説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	脈管系 1	【総論】 体循環・肺循環を理解し、循環全体の流れが説明できる。	
2	脈管系 2	【心臓の構造、刺激伝導系】 刺激伝導系の流れを覚え、説明できる。	
3	脈管系 3	【心膜、全身の動・静脈】 静脈の流れを知り、動脈との違いが説明できる。	
4	脈管系 4	【胎児循環、リンパ系】 成人と胎児の脈管の違いを理解し、説明できる。	
5	消化器 1	【消化器の流れ、口～胃】 口腔～肛門までの流れを覚え、簡単に図示することができる。	
6	消化器 2	【小腸、大腸】 小腸と大腸の違いを知り、特徴を説明することができる。	
7	消化器 3	【肝・胆・膵、腹膜】 肝臓の機能を理解し、説明することができる。	
8	呼吸器 1	【上気道】 呼吸器の全体流れを覚え、副鼻腔について説明することができる。	
9	呼吸器 2	【下気道】 気管・肺の左右差を知り、説明することができる。	
10	泌尿器	【腎臓～尿道】 泌尿器の役割、全体の流れを理解し、説明することができる。	
11	生殖器 1	【男性生殖器 1】 全体像を把握し、尿道と陰茎について理解し、説明することができる。	
12	生殖器 2	【男性生殖器 2】 精巣、精管の構造を知り、精子産生場所から射精までの流れが説明できる。	
13	生殖器 3	【女性生殖器 1】 卵巣の構造、卵巣周期、卵管について理解し、受精までの流れが説明できる。	

14		生殖器 4	【女性生殖器 2】 子宮の構造、月経周期、女性ホルモンについて理解し、説明ができる。
15		試験解説	前期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	物理療法学 Physical Therapy Equipment			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年～2018年 付属整骨院に所属 柔道整復師として従事
------	-------	-------	------------------------------------

学習内容	物理療法機器の原理、作用などを学ぶ。
到達目標	物理療法機器の原理、使用方法、効果、注意と禁忌について理解・習得し、説明することができるようになる。

準備学習 時間外学習	生理学の基礎知識が必要となる。自宅にて教科書を読み返すなどの復習をして下さい。
使用教材	柔道整復学 理論編 第6版 教科書
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		物理療法とは	物理療法の概要を分類について理解し、説明できる様になる。
2		物理療法の安全対策	説明と同意、禁忌、体位、刺激強度などについて理解し、説明できる様になる。
3		主な物理療法	刺激の3要素について理解し、説明できる様になる。
4		低周波電気刺激療法 1	低周波治療器機について理解し、説明できる様になる。
5		低周波電気刺激療法 2	低周波治療器機における痛みの神経伝達、鎮痛の仕組みについて理解し、説明できる様になる。
6		中周波電流療法	干渉波療法について理解、習得する。 温熱療法（ホットパック）の原理、使用方法、適応と効果、注意と禁忌を理解、習得し説明できる様になる。
7		温熱療法 1	パラフィン浴療法の使用方法、適応と効果、注意と禁忌を理解、習得し説明できる様になる。
8		温熱療法 2	水治療法の原理、使用方法、適応と効果、注意と禁忌を理解、習得し説明できる様になる。
9		温熱療法 3	近赤外線、遠赤外線の波長と特徴、マイクロ波のについて理解、習得し、説明することができるようになる。
10		温熱療法 4	赤外線療法、マイクロ波療法の原理、使用方法、適応と効果、注意と禁忌を理解、習得し説明できる様になる。
11		温熱療法 5	低レベルレーザー療法の原理、使用方法、適応と効果、注意と禁忌を理解、習得し説明できる様になる。
12		寒冷療法 1	伝導冷却法の原理、使用方法、適応と効果、注意と禁忌を理解、習得し説明できる様になる。
13		寒冷療法 2	対流冷却法の原理、使用方法、適応と効果、注意と禁忌を理解、習得し説明できる様になる。

14		牽引療法 1	頸椎牽引療法の原理、使用方法、適応と効果、注意と禁忌を理解、習得し説明できる様になる。
15		牽引療法 2	腰椎牽引療法原理、使用方法、適応と効果、注意と禁忌を理解、習得し説明できる様になる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	基礎包帯固定学 1 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	7
担当教員	岩崎英明	実務者経験	1997年～2018年 付属整骨院に所属 柔道整復師として従事				
学習内容	巻軸包帯を用いた手関節周囲の基礎包帯法を学ぶ。						
到達目標	各部位の基礎包帯法において、被覆包帯としての機能を果たしており、素早く、美しい包帯を巻くことができるようになる。 各種固定材料の基本的な操作方法を習得し、体肢に沿わせることができるようになる。						
準備学習 時間外学習	授業時間以外でも練習をして包帯が手に馴染むようにして下さい。						
使用教材	巻軸包帯（8 裂、6 裂、5 裂、4 裂、3 裂）、三角巾、筆記用具など						
留意点 備 考							
成績評価	実技試験100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		実技授業の注意 包帯の基礎	ほどいた巻軸包帯を巻き取る練習。および隻指帯の練習。 包帯を巻取ることができるようになる。隻指帯を示指に巻くことができるようになる。
2		指の包帯	全指帯を巻くことができるようになる。
3		指の包帯	総指包か帯を巻くことができるようになる。
4		指の包帯	指頭包か帯巻くことができるようになる。
5		指の包帯	母指上行麦穂帯を巻くことができるようになる。
6		手関節部の包帯	手関節上行麦穂帯を巻くことができるようになる。
7		総復習	隻指帯、全指帯、指頭包か帯、母指上行麦穂帯の練習。 それぞれを2分以内に巻くことができるようになる。
8		中間評価	隻指帯、全指帯、指頭包か帯、母指上行麦穂帯から出題し、指定した包帯を時間内に巻くことができる。
9		前腕の包帯	前腕の包帯を巻くことができるようになる。
10		固定材料の使用方 法 1	アルミ副子を第4、5指に沿わせて曲げ装着することができるようになる。 （第5中手骨頸部骨折を想定する）
11		固定材料の使用方 法 2	アルミ副子を装着した手指に包帯固定を行う練習。 包帯の巻き方を知る。
12		肘の包帯	肘関節離開亀甲帯を巻くことができるようになる。
13		肘の包帯	肘関節集合亀甲帯を巻くことができるようになる。

14		総復習	母指上行麦穂帯、手関節上行麦穂帯、前腕の包帯、肘関節離開亀甲帯の練習。 それぞれを2分以内に巻くことができるようになる。
15		肩の包帯	肩関節下行麦穂帯の巻き方を知る。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整解剖 A Anatomy of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	小田垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院勤務。現在に至る。
------	--------	-------	----------------------------

学習内容	骨の名称、骨の各部の名称、各関節の構造を学ぶ。
到達目標	骨の名称、各部の名称を覚え、体表からその位置を理解し触知することができるレベルに到達し、筋の理解に役立つようにする。

準備学習 時間外学習	前時間の復習（特に漢字で書けるようにすること）を行う。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	授業毎に小テストを実施。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。
------	-----------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/9	骨 1	総論（骨の役割・形状・表面に関する用語） 各論（鎖骨） 長・短骨など違いを理解し、鎖骨の名称を知り体表から触知できる。
2	4/23	骨 2	総論（骨の構造・成長） 各論（肩甲骨） 骨の構造を理解し、肩甲骨の名称を知り体表から触知できる。
3	5/7	骨 3	総論（骨の連結） 各論（上腕骨） 骨の成長や縫合を理解し、上腕骨の名称を知り体表から触知できる。
4	5/14	骨 4	総論（関節の種類） 各論（橈骨・尺骨） 関節の構造・種類を理解し、橈骨・尺骨の名称を知り体表から触知できる。
5	5/21	骨 5	各論（手の骨・胸骨） 手根骨の名称と位置関係を理解し体表から触知でき、肋骨切痕と胸骨角の関係を説明できる。
6	5/28	骨 6・関節 1	各論（肋骨・上肢の関節） 真肋と仮肋と浮遊肋の違いと上肢の関節の名称・構造とそれに付属する靱帯・関節の動きを知り説明できる。
7	6/4	骨 7	各論（寛骨・大腿骨・膝蓋骨） 腸骨・坐骨・恥骨・大腿骨の名称を知り体表から触知できる。
8	6/11	骨 8	各論（脛骨・腓骨・足の骨） 脛・腓骨・足の骨の名称を知り体表から触知でき、足根骨の位置を説明できる。
9	6/18	骨 9	各論（椎骨の基本的構造・頸椎・胸椎） 椎骨の基本形・頸椎の特別型・胸椎の構造の知り説明できる。
10	7/2	骨 1 0	各論（腰椎・仙骨・頭蓋骨の分類・側頭骨・後頭骨） 腰椎・仙骨の構造や頭蓋骨の有無、側頭骨・後頭骨の名称の知り説明できる。
11	7/16	骨 1 1	各論（頭蓋骨・骨盤） 下顎骨の名称と頭蓋骨の分類や眼窩・泉門を構成する骨や骨盤の構造・分界線を知り説明できる。
12	7/23	関節 2	各論（股関節から膝関節） 下肢の関節の名称・構造とそれに付属する靱帯と関節の動きを知り説明できる。
13	8/27	関節 3	各論（足関節・脊柱の連結） 足関節と脊柱・頭蓋の関節の名称・構造とそれに付属する靱帯と関節の動きを知り説明できる。

14	9/3	関節 4 ・ 体表解剖	各論（胸郭の連結・体表解剖P275～280） 胸郭の関節とそれに付属する靱帯を理解し、体表から骨の隆起、突起・溝・切痕等を説明できる。
15	9/24	試験解説・筋	前期試験解説・骨格筋の総論 起始・停止・筋の作用を理解し説明できる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整生理 A Physiology of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	上田 純	実務者経験	2002年6月～2010年3月大学病院、公立病院に所属、2010年4月以降自身が代表するクリニックで歯科医師として診療に従事。
------	------	-------	---

学習内容	体液が及ぼす人体の役割、神経系がもつ人体への作用について学ぶ。
到達目標	人体の機能を理解することで、生理学のみならず、他の臨床系科目等も理解できるようになる。また医療従事者として必要な知識を身につける。

準備学習 時間外学習	授業で学んだことは復習する。プリント、ノートだけではなく、該当する範囲の教科書も熟読すること。
使用教材	教科書「生理学（改訂第3版）」南江堂
留意点 備 考	解剖学の関連部分も教科書等でチェックしておくこと

成績評価	筆記試験を試験期間中に実施し、筆記100%で判定する
------	----------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーショ ン	生理学を学ぶにあたって【生理学とは】 生理学を学ぶ目的を理解し、医療従事者の心構えを身につける
2		体液①	体液【体液の組成、細胞内液、細胞外液】 体液の成分を理解し、体液を分類できるようになる
3		体液②	体液【浸透圧調節、酸塩基平衡】 浸透圧と酸塩基平衡について説明できるようになる
4		神経の基本①	神経の基本【ニューロン、静止膜電位、活動電位】 神経細胞の模式図をかけるようになり、活動電位が説明できる
5		神経の基本②	神経の基本【全か無の法則、化学伝達物質】 全か無の方則、化学伝達物質について説明できる
6		神経の基本③	神経の基本【シナプス】 シナプスの構造と機能について説明できる
7		神経の機能①	神経の機能【神経の分類、脊髄】 神経系を構造・機能に従って大きく分類できる。脊髄の構造を説明できる。
8		神経の機能②	神経の機能【小脳、脳室系】 脳脊髄液の循環、小脳の役割を理解する
9		神経の機能③	神経の機能【間脳、脳幹】 間脳と脳幹がもつ機能について説明できる
10		神経の機能④	神経の機能【反射】 筋紡錘の働き、脳幹反射について説明できる
11		神経の機能⑤	神経の機能【脳神経系】 脳神経系の走行、支配領域について説明できる
12		神経の機能⑥	神経の機能【自律神経系】 自律神経系の走行、支配神経について説明できる
13		神経の機能⑦	神経の機能【大脳皮質】 大脳皮質の持つ機能局在を説明できる

14		神経の機能⑧	神経の機能【高次機能】 ヒトのもつ認知機能、記憶、睡眠、学習について理解する
15		試験返却	試験返却【前期で学んだ全範囲】 試験問題の解答解説。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	基礎医学講座 Course of Basic Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	柔道整復師として必要な基礎知識を学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるように医学を学ぶ上で必要な基礎知識について説明できるようにする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『解剖学』、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/8	骨学オリエンテーション	骨学を学習するうえで必要な部位名称ついて説明することができる。
2	4/15	上肢骨	上肢骨の骨名、部位名称ついて説明することができる。
3	4/22	上肢骨	上肢骨の骨名、部位名称ついて説明することができる。
4	5/13	上肢骨	上肢骨の骨名、部位名称ついて説明することができる。
5	5/20	上肢骨	上肢骨の骨名、部位名称ついて説明することができる。
6	5/27	下肢骨	下肢骨の骨名、部位名称ついて説明することができる。
7	6/3	下肢骨	下肢骨の骨名、部位名称ついて説明することができる。
8	6/10	下肢骨	下肢骨の骨名、部位名称ついて説明することができる。
9	6/17	脊柱	脊柱の骨名、部位名称ついて説明することができる。
10	6/24	脊柱	脊柱の骨名、部位名称ついて説明することができる。
11	7/1	脊柱	脊柱の骨名、部位名称ついて説明することができる。
12	7/8	頭蓋	頭蓋の骨名、部位名称ついて説明することができる。
13	7/22	頭蓋	頭蓋の骨名、部位名称ついて説明することができる。

14	8/26	総復習	全ての骨名、部位名称ついて説明することができる。
15	9/2	試験解説	前期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	キャリアデザイン講座 3 Course of career Design 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	近藤 隆久 岡部 雅子	実務者経験	(近藤) 1998年4月～2019年4月現在 高等学校に所属 国語科の教諭として、授業等をおこなう
------	----------------	-------	--

学習内容	漢字・文書作成・発表が一通りできるように学ぶ。 また、マナー&コミュニケーション単元ではグループワークを通じて 社会人になった際に『使えるマナー・コミュニケーション』を学ぶ。
到達目標	社会人として、また職業人として生きるためのスキルを身につけるとともに、 実践的な場面でそれらを活用、さらには応用して用いることができるようになる。

準備学習 時間外学習	次回内容関連するニュース等を調べるなどの予習が必要。授業内で扱った内容の復習をする。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	本講義は、実習を交えた授業を実施するため、毎回積極的な参加が求められる。

成績評価	提出物（20%） 授業態度（積極的な発言等）（10%） 前期試験（70%）【各現段階予定】
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	【近藤】 オープニング 教養講座	「考える」ということを考えられるようになる。また「なぜ人は学習しなくてはならないのか」や「なぜ人は働かなくてはならないのか」等の基本的な問いを考えられるように促していく。
2	【近藤】 教養講座	チームワーク力やコミュニケーション力の育成を視野に入れながら、前回の講義内容についてグループ内で話し合いをさせる。さらには、人前で話すことに抵抗を無くさせる意味でプレゼンテーションを行わせ、人前で自分の意見を言えるようにさせる。
3	【近藤】 文章を読むということ（Ⅰ）	文章を「正しく」読めるようにさせる。具体的には、評論文を取り上げつつ、難しい内容の文章に対して抵抗感のない読み方をマスターさせ、今後の学生生活の中で生かせるようにさせる。
4	【岡部】 マナー①	マナーの基本要素（身だしなみ・表情・挨拶・お辞儀・姿） マナーの本質を理解し、基本要素を体得する。
5	【岡部】 マナー②	敬語と電話 ロールプレイングやケーススタディーを多く取り入れ、基本的な敬語と電話対応について学ぶ。感じの良い話し方について考える。
6	【岡部】 コミュニケーション①	コミュニケーションの重要性・多様性 コミュニケーションの重要性を知り、双方向での成り立ちを意識した行動がとれるようになる。また、話の組み立て方（NLC法）を学び練習する。
7	【岡部】 コミュニケーション②	傾聴 「良い聞き方」と「悪い聞き方」を体験し、傾聴の大切さを実感する。また、前回に引き続きNLC法で話す練習をする。
8	【岡部】 コミュニケーション③	問答トレーニング 一つのテーマについて段階的に聞くことで、相手から聞き出す方法を体験する。全員がNLC法での話の組み立てをスムーズに行え、発表できる。
9	【岡部】 コミュニケーション④	旅館ゲーム コミュニケーション技法を活用した総合演習に挑戦する。演習後コミュニケーション技法の生かし方、情報共有の仕方を振り返り、更にはチームワーク、役割分担、時間管理の大切さにも気づかせる。
10	【近藤】 文章を読むということ（Ⅱ）	文章を「正しく」読めるようにさせ、同時にその内容を要約文としてまとめることができるようになる。さらには、筆者の意見に対して自身の考えを論理立てて述べられるようにさせる。
11	【近藤】 文章を書くということ（Ⅰ）	文章を「正しく」書けるようにさせる。正しく書くとは一体どのようなことなのか、前回の内容をさらに踏み込ませた形で、取り上げたテーマを題材に自身の意見を的確に述べられるテクニクについて学ばせる。
12	【近藤】 文章を書くということ（Ⅱ）	文章を「正しく」書けるようさせる。具体的には前回の内容をベースにしなが、自分の意見を正確に述べられるようになるためにはどうしたら良いか、基本と応用を駆使しながら文章を書けるようにさせる。
13	【近藤】 ディベート	人前で自分の意見を述べられるようにさせる。具体的にはあるテーマを取り上げて、それに対する賛否や考え方について、自身の意見をエビデンスを持って言えるようにさせる。

14	【近藤】 プレゼンテーション (Ⅰ)	新聞記事を題材に、気になる内容を取り上げさせながら、グループ内でその内容をまとめさせてプレゼンテーション準備をさせる。そして、そうした中でコミュニケーション力や協調性を培わせ、社会における対人場面で役立つ力を育成させる。
15	【近藤】 プレゼンテーション (Ⅱ)	論理立てて（文脈を整えて）文章を人前で述べられるようになる。前回まとめた内容について、グループ内で協力しながらグループとしての意見を発表させる。〈発表時間：12分 質疑応答：8分を予定〉
16		

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	社会福祉学 Social Welfare			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜	時 限	7

担当教員	中川 るみ	実務者経験	大阪保健福祉専門学校、京都府社会福祉協議会、大阪地方検察庁などに勤務し、現在に至る。
------	-------	-------	--

学習内容	「人が人を助ける」という行為が、社会の制度として位置づけられたのは、数世紀前です。医療従事者の方々が日々の業務を通じて患者やその家族などからさまざまな相談を受けることが多くなりました。対人援助の基本姿勢や各制度の説明の必要性とともに、医療従事者には、特に高い人権意識が求められます。人権と制度を中心に学習します。
到達目標	人権と制度について理解し、柔道整復師としての心構えを身に着ける。

準備学習 時間外学習	
使用教材	コメディカルのための社会福祉概論 （講談社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	社会福祉とは	わが国の人口問題と課題について考え、説明することができる。	
2	社会福祉の歴史 (1)	慈善事業の背景について考え、説明することができる。	
3	社会福祉の歴史 (2)	社会事業と貧困対策について考え、説明することができる。	
4	社会福祉基礎構造 改革	社会保障改革の理解について考え、説明することができる。	
5	社会保険 (1)	社会保険の種類について考え、説明することができる。	
6	公的扶助	生活保護の現状について考え、説明することができる。	
7	子ども福祉	子どもに関わる法制度について考え、説明することができる。	
8	障害者福祉	障害者総合支援法と虐待防止について考え、説明することができる。	
9	高齢者福祉 (1)	高齢者を取り巻く状況について考え、説明することができる。	
10	高齢者福祉 (2)	高齢者を対象とした法制度について考え、説明することができる。	
11	介護保険制度	制度の概要について考え、説明することができる。	
12	社会保障制度 (1)	医療保障について考え、説明することができる。	
13	社会保障制度 (2)	年金保障について考え、説明することができる。	

14		社会保障制度 (3)	雇用保険・労災保険について考え、説明することができる。
15		試験解説	前期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	解剖学 2 Anatomy			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	服部洋一 吉田和功	実務者経験	2016年4月より兵庫医科大学病院 歯科口腔外科学講座に在籍。
------	--------------	-------	---------------------------------

学習内容	国家試験に準じた学力を身につける。
到達目標	内分泌器、神経系の構造を理解し、答えることができる。

準備学習 時間外学習	復習により内容理解を深めるようにする・
使用教材	解剖学 改訂第2版 （医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	小テスト20点 本試験80点
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		内分泌器	内分泌（A内分泌器の働き B各種ホルモンの働き） 内分泌と各種ホルモンの働きを説明できる
2		神経系 1	神経系の基礎 神経系の区分と働きについて説明できる
3		神経系 2	大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳 脳の形態と機能について説明できる
4		神経系 3	脊髄神経 脊髄の構造について説明できる
5		神経系 4	脳神経 脳神経を答えることができる
6		神経系 5	脊髄神経 脊髄神経の名称を答えることができる
7		感覚器 1	外皮、視覚 外皮、視覚器について説明できる
8		感覚器 2	聴覚、味覚 聴覚器、味覚器について説明できる
9		体表解剖 1	区分 骨格 筋 体表の区分を説明できる
10		体表解剖 2	脈管 神経 体表の脈管、神経を触知することができる
11		まとめ 1	総復習① 内分泌と中枢神経系を繋げて説明することができる
12		まとめ 2	総復習② 末梢神経系の構成、走行を説明することができる
13		まとめ 3	総復習③ 末梢神経系の構成、走行を説明することができる

14		まとめ 4	総復習④ 体表のランドマークを列挙し、触知することができる
15		試験解説	総復習⑤ 後期範囲の内容を説明することができる
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	生理学2 Physiology 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	橘 吉寿	実務者経験	2003.11-現在 生理学・神経科学講座に在籍
------	------	-------	--------------------------

学習内容	柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ
到達目標	生理学1では、消化・排泄など我々が生きていく上で必要な生体機能の基本原理を理解することを目指す

準備学習 時間外学習	予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる
使用教材	教科書『生理学』改訂第3版（医歯薬出版）
留意点 備 考	副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		消化と吸収1	消化器の構成要素を知り、消化液の分泌機序について説明できる。
2		消化と吸収2	肝胆系を中心に消化・吸収のメカニズムについて説明できる。
3		栄養と代謝経路1	生体に必要な栄養素とエネルギー産生経路について説明できる。
4		栄養と代謝経路2	エネルギー産生経路について説明できる。
5		体温調節のしくみ1	体温の生理的意義について説明できる。
6		体温調節のしくみ2	体温調節機構とその異常について説明できる。
7		尿の生成と排泄1	腎臓の構造と機能について説明できる。
8		尿の生成と排泄2	糸球体ろ過ならびに尿細管での再吸収機構について説明できる。
9		尿の生成と排泄3	尿の排泄機構について説明できる。
10		内分泌総論	内分泌系の概要について説明できる。
11		内分泌各論1	視床下部・下垂体ホルモンについて説明できる。
12		内分泌各論2	甲状腺・副腎皮質ホルモンについて説明できる。
13		内分泌各論3	副腎髄質・膵臓ホルモンについて説明できる。

14		内分泌各論4	精巣・卵巣ホルモンについて説明できる。
15		試験解説	試験の振りかえり
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔道 2 Judo2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	5限

担当教員	坂本美和子	実務者経験	他校(専門学校)を含め週12時間以上、17年間講師を務める
------	-------	-------	-------------------------------

学習内容	初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。
到達目標	三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。

準備学習 時間外学習	自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。
使用教材	柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のTシャツ
留意点 備 考	メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。

成績評価	実技試験80%、平常点(授業態度と出欠)20%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		礼法と受身 1	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、袈裟固が出来るようになる。
2		礼法と受身 2	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、袈裟固が出来るようになる。
3		礼法と受身 3	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、横四方固が出来るようになる。
4		礼法と受身 4	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、縦四方固が出来るようになる。
5		礼法と受身 5	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、上四方固が出来るようになる。
6		礼法と受身 6	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技のルールについて説明することができる。
7		礼法と受身 7	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。
8		礼法と受身 8	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。
9		礼法と受身 9	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。
10		礼法と立技 1	礼法、移動受身、前回り受身、立技、連続技の為の大内刈が出来るようになる。
11		礼法と立技 2	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から大腰(釣腰)が出来るようになる。
12		礼法と立技 3	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から一本背負投が出来るようになる。
13		礼法と立技 4	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から大外刈が出来るようになる。

14		礼法と立技 5	後期試験の内容を把握、習得することが出来る。
15		試験の解説と立技	立礼・座礼の方法を復習する。試験の解説後、立技の乱取り2分×3人し、柔道の楽しさと苦しさを学ぶ。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整基礎講座 3 Course of Basic Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	骨・関節・筋の連結などについて立体的に学ぶ。
到達目標	解剖生理学の内分泌系、神経系の構造を把握し、それぞれの特徴を理解し説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、『生理学』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		内分泌系 1	【概説、視床下部、下垂体】 内分泌とは何か、下垂体前葉・後葉ホルモンの名称を答えることができる。
2		内分泌系 2	【甲状腺、上皮小体、消化管】 甲状腺、上皮小体、消化管ホルモンの名称を答えることができる。
3		内分泌系 3	【副腎皮質・髄質】 副腎皮質・髄質ホルモンの名称を答えることができる。
4		内分泌系 4	【臍臓、生殖】 臍臓、生殖ホルモンの名称を答えることができる。
5		神経系 1	【中枢神経 1】 神経細胞の構造を書くことができ、中枢神経の構成について説明することができる。
6		神経系 2	【中枢神経 2】 大脳皮質・髄質の構造を知り、特徴について説明することができる。
7		神経系 3	【中枢神経 3】 脳幹の構造を知り、特徴について説明することができる。
8		神経系 4	【中枢神経 4】 脊髄の構造を知り、特徴について説明することができる。
9		神経系 5	【中枢神経 5】 伝導路において、どの感覚・運動がどの伝導路によって伝わるのかを説明することができる。
10		神経系 6	【中枢神経 6】 錐体路と錐体外路の違いについて説明することができる。
11		神経系 7	【末梢神経 1】 脳神経Ⅰ～Ⅵ、視覚伝導路の特徴について説明することができる。
12		神経系 8	【末梢神経 2】 脳神経Ⅶ～ⅩⅡ、聴覚伝導路の特徴について説明することができる。
13		神経系 9	【末梢神経 3】 脊髄神経の構造を知り、特徴について説明することができる。

14		神経系 10	【末梢神経 4】 自律神経の構造を知り、特徴について説明することができる。
15		試験解説	後期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整基礎講座 4 Course of Basic Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復術の習得に必要な基礎体表解剖を学ぶ。
到達目標	筋、、骨、感覚、生殖の機能について理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、『生理学』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋 1	【筋肉の種類とその特徴】 骨格筋、平滑筋、心筋の違いについて説明ができる。	
2	筋 2	【筋収縮の仕組み】 筋細胞の興奮から筋が収縮するまでの流れについて説明ができる。	
3	筋 3	【平滑筋】 平滑筋の特徴について説明ができる。	
4	筋 4	【心筋】 心筋の特徴について説明ができる。	
5	骨	【カルシウム代謝、ビタミンD、骨の病気】 カルシウム代謝について説明ができる。	
6	感覚 1	【感覚の種類】 感覚の分類について説明ができる。	
7	感覚 2	【体性感覚、特殊感覚 1】 痛覚、深部感覚、嗅覚、味覚について説明ができる。	
8	感覚 3	【特殊感覚 2】 視覚について説明ができる。	
9	感覚 4	【特殊感覚 3】 聴覚について説明ができる。	
10	感覚 5	【特殊感覚 4】 前庭感覚について説明ができる。	
11	生殖 1	【性染色体とその異常】 性染色体、減数分裂について説明ができる。	
12	生殖 2	【男性生殖器系の構成、精子形成】 男性生殖器の構造、機能について説明ができる。	
13	生殖 3	【女性生殖器の構成、卵巣周期、月経周期】 女性生殖器の構造、機能について説明ができる。	

14		生殖 4	【生殖ホルモン】 オキシトシン、プロラクチン、妊娠についてのホルモンの説明ができる。
15		試験解説	後期期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 1 Clinical Judo Therapy Basic 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を体幹を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。
到達目標	臨床現場でよく遭遇する骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		鎖骨骨折 1	【解剖、概説、発生機序、転位、症状】 鎖骨の構造、付着する筋を理解し、転位や症状について説明できる。
2		鎖骨骨折 2	【合併症、整復法、固定法、後療法、後遺症】 鎖骨骨折の後遺症を理解し、整復固定法を行うことができる。
3		鎖骨脱臼 1	【概説、胸鎖関節脱臼】 鎖骨周辺の靱帯について理解し、鎖骨脱臼の予後について説明することができる。
4		鎖骨脱臼 2	【肩鎖関節脱臼】 症状や固定法などについて説明することができる。
5	1	頭部・顔面の骨折	【解剖、頭蓋冠骨折、頭蓋底骨折】 頭部の構造、通過する神経などを理解し、症状について説明できる。
6	2	頭部・顔面の骨折	【鼻骨骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折、下顎骨骨折】 それぞれの骨折の特徴について説明できる。
7		顎関節脱臼 1	【解剖、概説、前方脱臼】 顎関節の構造、付着する筋を理解し、転位や症状について説明できる。
8		顎関節脱臼 2	【後方脱臼、側方脱臼】 前方脱臼との違いについて説明することができる。
9		頭部・顔面の 軟部組織損傷	【打撲、顎関節症、顎関節捻挫】 顎関節症の分類と特徴について説明することができる。
10		頸椎の骨折	【解剖、頸椎の骨折】 頸椎・胸椎・腰椎の骨折を混乱せずに説明することができる。
11		頸椎の脱臼	【頸椎の脱臼および脱臼骨折】 頸椎の骨折および脱臼においての
12		頸部の 軟部組織損傷 1	【むちうち損傷、胸郭出口症候群、寝違え】 むちうち損傷および胸郭出口損傷の分類を覚え、それぞれの特徴について説明できる。
13		頸部の 軟部組織損傷 2	【頸部で注意すべき疾患】 整形外科領域の疾患を知り、説明することができる。

14		口頭試問	基礎各論 1 で学習した項目の口頭試問を行い、合格する。
15		試験解説	後期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論2 Clinical Judo Therapy Basic2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		肩甲骨骨折①	肩関節部の筋肉などの構造、肩甲骨骨折の分類について説明できる。
2		肩甲骨骨折②	肩甲骨の各骨折の症状などの特徴について説明できる。
3		上腕骨骨折①	解剖頸、骨頭、大結節、小結節の骨折について説明できる。
4		上腕骨骨折②	近位骨端線離開、外科頸骨折について説明できる。
5		上腕骨骨折③	外科頸骨折について説明できる。
6		肩関節脱臼①	前方脱臼、後方脱臼について説明できる。
7		肩関節脱臼②	下方脱臼、上方脱臼、反復性肩関節脱臼について説明できる。
8		肩関節脱臼実技	整復法（ゼロポジション、スティムソンなど）を行うことができる。
9		肩関節部の軟部組織損傷①	筋・腱損傷（腱板断裂・上腕二頭筋長頭腱損傷）について説明できる。
10		肩関節部の軟部組織損傷②	スポーツ損傷（ベネット損傷・SLAP損傷）について説明できる。
11		肩関節部の軟部組織損傷③	スポーツ損傷（肩峰下インピンジメント症候群・リトルリーガー肩）について説明できる。
12		肩関節部の軟部組織損傷④	不安定症、末梢神経障害について説明できる。
13		肩関節部の軟部組織損傷⑤	その他の疾患（五十肩など）や注意すべき疾患について説明できる。

14		口頭試問	口頭により肩部の障害について説明できる。
15		試験解説	後期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論3 Clinical Judo Therapy Basic3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	牧之瀬 泰祐	実務者経験	H11年6月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	--------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を胸・背部、腰部、上腕部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		胸・背部の損傷	胸・背部の解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状について説明できる。
2		胸部の骨折（肋骨・胸骨）	胸部の骨折の発生機序・症状について説明できる。
3		胸椎の骨折	胸椎の骨折の発生機序・症状について説明できる。
4		胸椎の脱臼	胸椎の脱臼の発生機序・症状について説明できる。
5		その他の疾患について	その他の疾患について説明できる。
6		注意すべき疾患について	注意すべき疾患について説明できる。
7		腰部の損傷	腰部の損傷について説明できる。
8		腰椎の骨折	腰椎の骨折について説明できる。
9		腰椎の脱臼	腰椎の脱臼について説明できる。
10		腰部の軟部組織損傷	腰部の軟部組織損傷について説明できる。
11		上腕部の損傷（解剖と機能）	上腕部の損傷について説明できる。
12		上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折について説明できる。
13		上腕部の軟部組織損傷	上腕部の軟部組織損傷について説明できる。

14		口頭試問	口頭により胸・背部、腰部、上腕部の障害について説明できる。
15		試験解説	後期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論4 Clinical Judo Therapy Basic 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	牧之瀬 泰祐	実務者経験	H11年6月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	--------	-------	---------------------------------------

学習内容	運動器の解剖、骨折・脱臼・軟部組織損傷を学び、鑑別に役立てる
到達目標	運動器の解剖と各損傷を結びつけて損傷を説明できるようになる

準備学習 時間外学習	解剖の予習を行えることが望ましい
使用教材	柔道整復学理論編 改訂第6版 南江堂
留意点 備 考	

成績評価	定期試験 90% 口頭試問 10%
------	-------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		胸椎部損傷	胸・背部の損傷 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
2		胸椎部損傷	胸部の骨折（肋骨・胸骨） 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
3		胸椎部損傷	胸椎の骨折 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
4		胸椎部損傷	胸椎の脱臼 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
5		注意を要する疾患	胸椎部その他の疾患 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
6		注意を要する疾患	注意すべき疾患について 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
7		腰部損傷	腰部の損傷 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
8		腰部損傷	腰椎の骨折 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
9		腰部損傷	腰椎の脱臼 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
10		腰部損傷	腰部の軟部組織損傷 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
11		上腕部損傷	上腕部の損傷（解剖と機能） 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
12		上腕部損傷	上腕骨骨幹部骨折 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる
13		上腕部損傷	上腕部の軟部組織損傷 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる

14		口頭試問	口頭試問 口頭試問形式で内容を答えることができる
15		解説	後期試験の解説 後期内容を要約して説明できる
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論5 Clinical Judo Therapy Basic 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーショ ン	柔道整復学を学ぶ意義について 授業の目的を答えられる
2		股関節損傷	股関節の軟部組織損傷 1 各障害の特徴を説明できる
3		股関節損傷	股関節の軟部組織損傷 2 各障害の特徴を説明できる
4		股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 その他疾患を知る
5		股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死症の注意点を説明できる
6		股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 変形性股関節症の注意点を説明できる
7		大腿部損傷	大腿部損傷 大腿部の筋肉の解剖を説明できる
8		大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の特徴を説明できる
9		大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の分類を説明できる
10		大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の治療上の注意点を説明できる
11		大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷 1 大腿部打撲について説明できる
12		大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷 2 大腿四頭筋肉ばなれについて説明できる
13		大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷・注意すべき疾患 ハムストリングス肉離れの理解及び骨化性筋炎を説明できる

14		総復習	総復習 授業内容を再点検する
15		試験解説	解説・復習 後期内容を振り返り、ポイントを説明できる
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	基礎包帯固定学 2 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	岩崎英明	実務者経験	1997年～2018年 付属整骨院に所属 柔道整復師として従事
------	------	-------	------------------------------------

学習内容	巻軸包帯を用いた基本包帯法や、三角巾による固定法、副子などの作成過程を学ぶ。
到達目標	各部位の基礎包帯法において、被覆包帯としての機能を果たしており、素早く、美しい包帯を巻くことができるようになる。 各種固定材料の基本的な操作方法を習得し、体肢に沿わせることができるようになる。

準備学習 時間外学習	授業時間以外でも練習をして包帯が手に馴染むようにして下さい。
使用教材	巻軸包帯（8 裂、6 裂、5 裂、4 裂、3 裂）、三角巾、筆記用具など
留意点 備 考	

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	三角巾	たたみ三角巾、提肘三角巾	
2	副子作成 1	厚紙、綿花、ガーゼを用いて副子を固定用副子を作成する。 厚紙を型紙に合わせて切る。	
3	副子作成 2	厚紙を用いて副子を固定用副子を作成する。	
4	副子作成 3	綿花、ガーゼを用いて固定用枕子を作成する。	
5	固定材料の使用 方法 1	プライトンを手指に装着し、基本的な用い方を習得する。	
6	固定材料の使用 方法 2	プライトンを手指に装着し、基本的な用い方を習得する。	
7	肩の包帯 1	肩関節上行麦穂帯の巻き方を知る。	
8	肩の包帯 2	肩関節上行麦穂帯を巻くことができるようになる。	
9	冠名包帯 1	デゾー氏包帯 第 1 帯、第 2 帯の目的と巻き方を知る。	
10	冠名包帯 2	デゾー氏包帯 第 3 帯、第 4 帯の巻き方を知る。また 2 巻目を継ぐ方法を習得する。	
11	冠名包帯 3	デゾー氏包帯 第 3 帯、第 4 帯を巻くことができるようになる。	
12	肩の包帯 3	肩関節上行麦穂帯の復習により、精度を高める	
13	三角巾	堤肘三角巾の復習により精度を高める。	

14		総復習	三角巾、肩関節上行麦穂帯、デゾー包帯第3・4帯の練習。 それぞれを3分以内に巻くことができるようになる。
15		まとめ	後期末試験でレベルが低い包帯を復習する。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	臨床実習 1 Clinical Training1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	45	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	5.6

担当教員	山田 靖典・林 宏明	実務者経験	2001年～2008年まで長嶋整形外科勤務
------	------------	-------	-----------------------

学習内容	大関節の評価を行い施術の基礎を学ぶ。
到達目標	柔道整復師学科に入って良かったと思えるようになり、次年度に向け 勉学の意欲をわかす。

準備学習 時間外学習	筋肉の理解が必要となるため起始停止作用は各自で理解する。
使用教材	プリント資料
留意点 備 考	抜き打ち小テストを実施

成績評価	授業評価、筆記テスト
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】				
1		臨床実習について	臨床実習の意義を理解する。また評価法に興味を持たず	90分
2		SFMAについて	SFMA（評価法）の目的・ルールを覚える。	90分
3		頸椎評価法	頸椎の評価を知る。	90分
4		頸椎評価法	頸椎の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
5		頸椎治療法	頸椎の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
6		肩評価法	肩関節の評価を知る	90分
7		肩評価法	肩関節の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
8		肩治療法	肩関節の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
9		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作評価を知る	90分
10		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
11		多分節屈曲治療法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
12		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作評価を知る	90分
13		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分

14		多分節伸展治療法	体幹の伸展動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
15		筋肉テスト	筋肉名を問いかけ起始停止を答える。作用は自分で動作を行う	90分
16		オリエンテーション	柔道整復師として必要な臨床の知識を説明することができる。	50分
17		手技療法	柔道整復師として必要な手技療法を行うことができる。	50分
18		手技療法	柔道整復師として必要な手技療法を行うことができる。	50分
19		手技療法	柔道整復師として必要な手技療法を行うことができる。	50分
20		物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
21		物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
22		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
23		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
24		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
25		物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
26		物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
27		物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
28		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
29		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
30		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分

科目名 【英】	柔整解剖B Anatomy of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	小田垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院勤務。現在に至る。
------	--------	-------	----------------------------

学習内容	筋の名称、付着、走行、作用、支配神経を学ぶ
到達目標	筋の名称、走行、付着、支配神経を答え、体表から触知することができるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	前時間の復習（特に漢字で書けるようにすること）を行う。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	授業毎に小テストを実施。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。
------	-----------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋 1	上肢帯の筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
2		筋 2	上腕の筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
3		筋 3	前腕の筋① 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
4		筋 4	前腕の筋② 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
5		筋 5	手の筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
6		筋 6	下肢帯の筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
7		筋 7	大腿の筋① 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
8		筋 8	大腿の筋② 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
9		筋 9	下腿の筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
10		筋 1 0	頭部の筋① 咀嚼筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
11		筋 1 1	体幹の筋 胸部 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
12		筋 1 2	体幹の筋 腹部 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
13		体表解剖 1	頭蓋底 頭蓋の孔の名称を答えることができる

14		体表解剖 2	体表解剖 筋、脈拍を触知することができる
15		試験解説	総まとめ 映像解剖 後期範囲をまとめ、答えることができる
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整生理B Physiology of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	上田 純	実務者経験	2002年6月～2010年3月大学病院、公立病院に所属、2010年4月以降自身が代表するクリニックで歯科医師として診療に従事。
------	------	-------	---

学習内容	医療従事者として相応しい生理学の知識、思考能力を獲得する。
到達目標	人体の機能を理解することで、生理学のみならず、他の臨床系科目等も理解できるようになる。また医療従事者として必要な知識を身につけることができる。

準備学習 時間外学習	授業で学んだことは復習する。プリント、ノートだけではなく、該当する範囲の教科書も熟読すること。
使用教材	教科書「生理学（改訂第3版）」南江堂
留意点 備 考	解剖学の関連部分も教科書等でチェックしておくこと

成績評価	筆記試験を試験期間中に実施し、筆記100%で判定する
------	----------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋①	骨格筋、平滑筋、心筋の違いについて説明できる。
2		筋②	興奮収縮連関について説明できる。
3		筋③	筋と張力、長さの関係について説明できる。
4		筋④	平滑筋、心筋について説明できる。
5		感覚①	感覚の分類について説明できる。
6		感覚②	一般感覚の種類、内容について説明できる。
7		感覚③	嗅覚、味覚について説明できる。
8		感覚④	目の生理学的機能、視覚について説明できる。
9		感覚⑤	聴覚、前庭感覚について説明できる。
10		生殖①	発生学的観点から、生殖系について説明できる。
11		生殖②	男性生殖器とその機能について説明できる。
12		生殖③	女性生殖器とその機能について説明できる。
13		骨①	骨の構造と成長について説明できる。

14		骨②	カルシウム代謝と内分泌、ビタミンとの関係について説明できる。
15		試験返却	試験返却【後期で学んだ全範囲】 筋、感覚を中心とした生理学について説明できる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	コンディショニングトレーナー講座 Course of Conditioning Trainer Skill			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	栗若 伸一	実務者経験	2010年3月～2016年12月 アミティエ s d 2017年4月～現在 桃山学院大学アメリカンフットボールコーチ
------	-------	-------	---

学習内容	現場におけるトレーナー活動に必要な基礎知識を学ぶ。
到達目標	現場におけるトレーナー活動に必要な基礎知識と実技能力を習得できる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	平常点 2 0 % レポート 8 0 % で評価を行う。
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		トレーナーとは	トレーナーの役割、職業区分、必要な知識、技術、行動と倫理について説明できる。
2		トレーニングの基礎	筋力トレーニング、基礎知識の理解と実技による動作を習得できる。
3		トレーニングの基礎	上肢筋力トレーニング、基礎知識の理解と実技による動作を習得できる。
4		トレーニングの基礎	下肢筋力トレーニング、基礎知識の理解と実技による動作を習得できる。
5		トレーニングの基礎	補助種目の筋力トレーニング、基礎知識の理解と実技による動作を習得できる。
6		機能的動作とトレーニング	ファンクショナルトレーニングの理論について説明できる。
7		機能的動作とトレーニング	ファンクショナルトレーニングの理論について説明できる。
8		体幹トレーニングの理論と実技	体幹における正しい知識を理解し、正しいトレーニング方法を習得することができる。
9		ストレッチ実技	スタティックストレッチについて説明し、実技を実施することができる。
10		ストレッチ実技	ダイナミックストレッチについて説明し、実技を実施することができる。
11		プライオメトリクス	プライオメトリクスの効果について説明し、実技を実施することができる。
12		スピードトレーニング	フィールドで行われる各種動作について説明することができる。
13		スピードトレーニング	フィールドで行われる各種動作について説明することができる。

14		栄養学の基礎	アスリートの栄養に関する基礎理論について説明することができる。
15		最新のトレーニング アプローチ	最新のトレーニングのメソッド、手法について説明することができる。
16			

提出期日：初回授業日